

TOYOTA
COMMUNITY
CONCERT



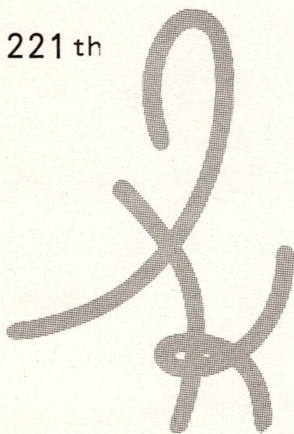
<トヨタコミュニティーコンサート>

ファミリー交響楽 コンサート

平成3年12月22日(日)
午後2時開演
市川市文化会館大ホール

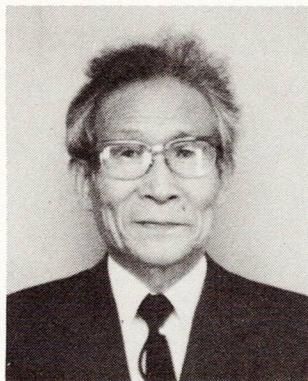
1991

221th



平成3年度市川市文化祭 参加
第6回 国民文化祭ちば'91参加

共催／市川市教育委員会 市川交響楽団協会
協賛／千葉県トヨタ販売店グループ



開催ごあいさつ

本日は、ようこそ市川市平成3年度秋季文化祭行事の市響ファミリー交響楽コンサートにお出で下さいまして、誠に有難うございました。尚、この紙面をお借りして、先月24日にホスト役を務め成功させて頂いた第6回国民文化祭'91ちば全国オーケストラ交流演奏会に対しましても厚く御礼を申し上げます。

今回の演奏会は市川交響楽団結成40周年最後の行事でありまして、私共が日頃より願っております健康なクラシック音楽の普及啓蒙を成功させたいために表題にもファミリーを付け、親しみ易い曲目を配列しました。又、指揮者には市響育ちで市響吹奏楽団を5年連続全国金賞楽団に育てた芸大卒の津田雄二郎氏を、独奏者は芸大を出られ、N響団員の経歴（お家の事情で数年前退団）を持ち、30数年前には市響のコンサートマスターも兼任された当市在住の優秀なヴァイオリニスト宮地徹雄氏をお迎えしました。メンバーも一生懸命に頑張っていますので楽しい音楽会になると存じます。終演までご静聴下さい。

最後に、この会をご支援下さいました市川市教育委員会並びにトヨタ自動車関係者の皆様に厚く御礼を申しあげ、開催ごあいさつと致します。

市川交響楽団協会

理事長 村上 正 治

プ ロ グ ラ ム

交 響 楽

交響曲 第8番 ロ短調「未完成」…………… F. シューベルト
(1797~1828)

第1楽章……アレグロ・モデラート

第2楽章……アンダンテ・コン・モト

協 奏 曲

ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K.216 ……W. A. モーツァルト
(1756~1791)

第1楽章……アレグロ

第2楽章……アダージョ

第3楽章……ロンド〜アレグロ

————— 休 憩 —————

交 響 楽

交響曲 第8番 ト長調 作品88…………… A. ドヴォルザーク
(1841~1904)

第1楽章……アレグロ・コン・ブリオ

第2楽章……アダージョ

第3楽章……アレグレット・グラツィオーソ

第4楽章……アレグロ・マ・ノン・トロポ

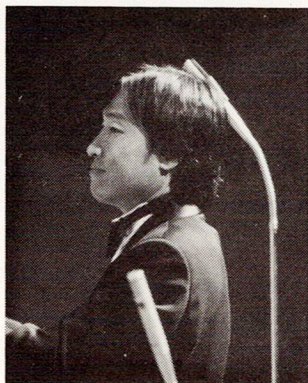
合 員 合 唱 「もろ人こぞりて」…………… 讚美歌より

指 揮 : 津 田 雄 二 郎

ヴァイオリン独奏 : 宮 地 徹 雄

管 弦 楽 : 市 川 交 響 楽 団

紹 介



指 揮：津 田 雄二郎

昭和31年青森県に生まれる。県立国府台高校、東京芸術大学器楽学科を卒業。トロンボーンをディー・スチュワート、伊藤清、永浜幸雄、クルト・プッケ、牧野守英、ジョー・アレッシに、指揮法を大友直人、佐藤功太郎、Vnを桑原幹子、対位法を小倉仲作各氏に師事。現在県立船橋東高校で教鞭をとり、同校吹奏楽部、合唱部の指導に当る傍ら、市川交響吹奏楽団、慶応義塾大学ウィンドアンサンブルの指揮者としても活躍している。市響の演奏会では昨年6月の「交響楽コンサート」でベートーベンの交響曲第8番ほか、以来の出演であるが、その間副指揮者として市響の公演に協力し、昨年10月にはマーラーの交響曲第5番を、今年11月には国民文化祭公演のチャイコフスキー交響曲第4番を手掛けている。



ヴァイオリン独奏：宮 地 徹 雄

昭和6年(1931)市川市生まれ。真間小、旧県立千葉中(現千葉高)を卒業。

昭和25年(1950)東京芸術大学音楽部器楽科(ヴァイオリン科)へ入学。

昭和29年(1954)卒業と同時にNHK交響楽団入団。

昭和38年(1963)同楽団退団。家業の橋梁(鉄骨)工事会社の役員に転身。現在橋梁設計会社役員。

宮地氏は芸大在学中より市響初期の団員、コンサートマスターとして活躍されました。その後市響の活動からはしばらく遠ざかっておられましたが、市響創立40周年の今年、市川市在住の音楽愛好者で、市響ゆかりの方と言う事で出演をお願いする事となりました。年令は60才、今年還暦を迎えられたとの事ですが、ますますのご活躍を。

曲 目 解 説

交響曲 第8番「未完成」口短調

F. シューベルト

シューベルトは僅か16才で交響曲を書き始め、31才で世を去るまで9つの交響曲を書いている。第8番が出来たのは1822年(25才)である。この交響曲は作曲者の存命中は全く演奏されず、死後45年を経て初めて演奏された。この曲は2つの楽章だけであるから「未完成」と呼ばれるが、シューベルト自身はもちろん2楽章だけで終わらせるつもりはなく3楽章もつくりかけていた。何故途中で中断されてしまったかは諸説あるがここでは2つの説を紹介するにとどめたい。

- ① 1.2楽章があまりにも素晴らしく3楽章にふさわしいものが書けなかった。
- ② 1.2楽章が3拍子で3楽章も3拍子であるので困ってしまった。

すこしシューベルト自身のことも述べたい。彼は内気で引っ込み思案であったようである。かれは自らの技術、名演によって作曲家としての名声を勝ち得ることができなかった。また人生に多くを求めず、作品がいつ演奏されるかなどに無頓着であった。彼は友人に宛ててこのように語っている。「このままでいいんだ。僕は作曲するためだけに生まれてきたんだ。」19世紀前半のウィーンは彼のような音楽家を生みえた都市であった。

ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K 216

W. A. モーツァルト

モーツァルトには「ヴァイオリンコンチェルト」が5曲あってケツフェル番号でいうとK207、211、216、218、219である。数字の続きからおわかりでしょうが、彼はこの5曲をほとんど続けて作曲しているのである。しかも1775年4月から12月まで8カ月の間に作曲している。19才である。本日演奏される第3番は9月に、ザルツブルグで作曲された。一言で述べるなら「潑刺としていてウキウキするような曲」といえる。音を楽しむと書いて「音楽」というなら、まさにこの曲は音楽といえるのではないかと思う。ちなみに私事になりますが小生、チョーリヤン・リンがヴァイオリン演奏するCD(5番とのカップリング)を持ってありますがまさに潑刺としていてウキウキするような演奏と言えましょう。ところが演奏者はなかなか楽しむという訳にいかないのがモーツァルトなのである。比較的易しいがやっぱり難しいというのがモーツァルトの私の印象である。とはいえ楽しい気持ちで聞いて頂ければ幸いです。

曲の構成は3楽章。1楽章はアレグロ、ト長調、4分の4拍子。2楽章はアダージョ、ニ長調、4分の4拍子。3楽章はロンド、アレグロ、ト長調、8分の3拍子です。ヴァイオリン弾きなら1回は弾いてみたい曲と言えましょう。

交響曲 第8番 ト長調 作品88

A. ドヴォルザーク

この曲は1889年ドヴォルザーク48才の時に、別荘があるヴィソカーで作曲されている。この3年後に訪れるアメリカ行の際に生まれる新世界交響曲と違って、まさにボヘミアの作曲家であるドヴォルザークの頂点を極める交響曲と言っても過言は無かろう。またいかにもボヘミアの田園風景を彷彿とさせる曲想はそのころの彼の充実した幸福な気分を表しているといえよう。彼は言っている。「ほとんど終日わたしは庭を歩き回り、この愛らしい木々や茂みやバラを眺め、飽くことを知らないのです。」ドヴォルザークという作曲家は素晴らしいメロディーメイカーであると思う。各楽章素晴らしい旋律が流れる。しかも冒頭にテーマが登場する。以下に4つの楽章のテーマを並べてみた。

(どれが何楽章かあてて下さい。)特に4楽章などは緩急の変化が激しい。ただし4楽章の後半で奏されるクラリネットからオーボエに引き継がれるソロは圧巻である。私はヴァイオリン弾きであるが、この時ばかりは管楽器に憧れてしまうのは私だけであろうか。

なおこの曲は<イギリス交響曲>という副題が付くことがあるが、これはイギリス地方とはなに

も関係はない。8番の交響曲を、以前から契約していたジムロックという出版社と喧嘩したためイギリスのノヴェロ出版社から出版したために〈イギリス交響曲〉という副題が付いているのだそうである。

この曲は1890年ドヴォルザーク自身の指揮によりプラハで初演され、ロンドンフィルハーモニー交響楽団でも演奏され好評を得た。ハンスリヒターの指揮でウイーンでも演奏されている。

The image displays four staves of musical notation, numbered 1 through 4. Staff 1 is in bass clef with a 4/4 time signature, marked *pp* *espress.* and *pizz.* Staff 2 is in treble clef with a 4/4 time signature, marked *mp*, *fz*, *p*, *fz*, and *p*. Staff 3 is in treble clef with a 4/4 time signature, marked *f* and *pizz.* Staff 4 is in bass clef with a 4/4 time signature, marked *mp*, *fz*, *pizz.*, *p*, and *p*. The notation includes various note values, rests, and dynamic markings.

「旅」距離と時間 —ドヴォルザークと旅—

我が国日本では足袋？ではなく旅といえば芭蕉である。17世紀後半から目を19世紀のヨーロッパに転じてみると本日のメインプロの作曲者であるドヴォルザークとなる。ドヴォルザークは1841年にプラハ郊外の寒村で肉屋の息子として生まれた。当時のプラハはオーストリアのハプスブルグ朝の支配下にあった。彼のスラブ民族の血は音楽と通じて自国の独立を勝ち得たいという強い信念に満ち溢れていたに違いない。しかし日常生活はといえば機関車が走りだしたばかりであり、電灯も灯りはじめたばかりであった。そのような状況の中ドヴォルザークは積極的に各国を訪ねたり、招いたりしながら当時のスター達と交流を深めている。当時の人の距離感はいかばかりであったろうか。イギリスへは1884年3月に初めて訪れている。彼は生まれて初めて海が見られる事を非常に楽しみにしていたようである。しかし彼の眼前に現れたのは、少年時代をその岸辺で過ごしたヴルタワ（モルダウ）河の、ビン詰めにしたような緑色とは全く別の、目を見張るばかりの緑青色の海の水と大気中にくまなく含まれているヨードの苦さであった。彼はロンドンのハイパークの隣にあるアルバートホールで彼自身の指揮で自作を演奏した。賞賛で迎えられた。ウイーンではブラームスを訪ねている。ブラームスは1833年生まれであり、ドヴォルザークより8才年上である。かれらは意気投合し、のちに逆にブラームスがプラハを訪れている。

さて彼は51才になった1892年に故郷であるプラハを離れ、ニューヨークの国民音楽学校の校長に迎えられ新世界であるアメリカに旅立つ。ドイツの北港ブレーメル・ハーフェンから出航し9日後、新大陸に自由の女神を見つける。彼は4年間のアメリカ生活で知られているように新世界交響曲、チェロ協奏曲、弦楽四重奏曲「アメリカ」を作曲する。またシカゴで開催された万国博覧会の見学のためシカゴとともにナイアガラの滝も訪れている。しかし彼は望郷の念は禁じえず再びボヘミアの地にもどる。

最後に彼の趣味は子供みたいに機関車を眺めることであったことを付け加えておきたい。

本日の出演者

第1ヴァイオリン

石井優子
安藤摂津子
太田有紀子
亀井玲子
木佐貫美保
鈴木淳子
高浜久美子
鳥塚昭子
長尾浩行
永田匡
広浜浩司
福原祥子
三田村忠芳
山田健一

第2ヴァイオリン

石井久雄
石本恵理
栗林えみ
堤哲児
二宮伸雄
根守弘和
久田しげ子
深沢武夫
三木美千子
村上葉子

柳沢敦子

ヴィオラ

久保木佳代子
斎藤十一郎
佐伯峻
高橋行継
竹内ひとみ
星乗昭
村上賢一
横田行雄
横山淳
渡部玲子

チェロ

池田寛之
大矢真由美
倉沢由和
瀬川清
田頭扶
中村公一
樋口進
福原耕二
山口勝規
横田朝之

コントラバス

内田葉子
河内恵二
菊池克彦
鈴木重則
三輪泰之
村上信乃
李隆子

フルート

木村純一
木村真諭紀

オーボエ

荒井淳
宇田川知子

クラリネット

田代安正
時田雄
吉野智久

ファゴット

金坂哲
小島厚
戸川安道

ホルン

河野和正
越塚康央
嶋村恒夫
山内正晴
山口幸治

トランペット

浅岡幹晶
安藤宣明
一柵泰一
新井本昌宏

トロンボーン

久保昭
桑秀樹
梶谷妙絵
野木夕起子
藪崎裕至

ティンパニー

大川勝之